

日本語表現法

選 択

開講年次：1年次前期

科目区分：演 習

単 位：1 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：言語表現に関する基本的な学術用語を学び、多角的に考える為の基礎知識を培う。その上で、適切な日本語表現とは何かについて正しく理解するとともに、実践的な文章表現力を身に付ける。

■**到達目標**：①言葉をめぐる様々な概念を理解し、適切に応用できる。
②様々な文章の性質を理解し、それぞれの約束事に沿った文章を執筆できる。

■**担当教員**：

安永 立子

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 オリエンテーション／「レポート」とは／文章作成の基本
- 第 2 回 「話し言葉」と「書き言葉」／論文の文体
- 第 3 回 説明的文章の方法(1)／知識や情報を伝える
- 第 4 回 説明的文章の方法(2)／「カテゴリー」とは／
…レポート実作①「説明文」を書く
- 第 5 回 レポートの基本的構成／発想から文章へ(1)
- 第 6 回 レポートを組み立てる／資料の集め方
- 第 7 回 引用書誌情報の記し方／引用と要約／段落について
- 第 8 回 レポート実作②「問題提起のある文章」を書く
- 第 9 回 発想から文章へ(2)／賛否両論を想定する
- 第10回 論文の構造／賛否両方の論を書いてみる
- 第11回 事実と意見の違い／アウトラインの作り方
- 第12回 レポート実作③「主張文」を書く
- 第13回 「要約」の方法／論文的な文体とは
- 第14回 「論理的」ということ／データを読み取る
- 第15回 敬語について／手紙文、メール文の定型を学ぶ
…レポート実作④「手紙文」を書く

■**教科書**：教科書は使わず、授業毎にワークシートを配布する。

■**参考文献**：授業中にその都度、紹介する。

■**成績評価基準と方法**：授業内レポート(4割)、出席・授業態度(6割)

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合(%)
	到達目標①	到達目標②		
定期試験				
授業内レポート	◎	◎	授業内容を理解している事 指定を遵守して執筆している事	40
授業態度	○	○	積極的な参加	適宜加味する
発表				
課題・作品				
出席	◎	◎	2/3以上の出席 授業内で指示された課題を出席票に適切に 記入できる事	欠格条件 60
その他				

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他(学生へのメッセージ・履修上の留意点)**：この講義は単純な文章の書き方講座ではなく、言葉の本質について考えることも重視している。授業には辞書(電子辞書も可)を毎回、携帯すること。

日本語表現法

選 択

開講年次：1 年次前期

科目区分：演 習

単 位：1 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：文章を作成する上で必要な約束事を理解し、論理的な表現を行うための基礎を養う。その上で、実際にレポートの作成を行いながら、必要な文章表現力の向上を目指す。

■**到達目標**：①文章作成における基礎的事項を理解し、適切に応用できる。
②様々な文章の性質を理解し、それぞれの約束事に沿った文章を執筆できる。

■**担当教員**：

斎木 正直

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 論理的文章の表現
- 第 3 回 文章の構造
- 第 4 回 文章の要約／レポート①
- 第 5 回 レポート作成の手順
- 第 6 回 データ・図の利用／資料の活用
- 第 7 回 文章の引用／注の使用／参考文献の利用
- 第 8 回 文章の構成／レポート②
- 第 9 回 表記のきまり／表記の統一
- 第10回 言葉の選択／読みやすい文章とは
- 第11回 事実と意見
- 第12回 文章の組立／レポート③
- 第13回 文章の推敲
- 第14回 敬語表現
- 第15回 まとめ／レポート④

■**教科書**：教科書は使わず、授業毎にレジュメを配布する。

■**参考文献**：必要に応じて、適宜指示する。

■**成績評価基準と方法**：授業内レポート（4割）、出席・授業態度（6割）

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合(%)
	到達目標①	到達目標②		
定期試験				
小テスト・授業内レポート	◎	◎	授業内容を理解している事 指定を遵守して執筆している事	40
授業態度	○	○	積極的な参加	適宜加味する
発表				
作品				
出席	◎	◎	2/3以上の出席 出席票に授業内で指示された課題を適切に 記入できる事	欠格条件 60
その他				

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：受講者には文章作成における基本を理解した上で、文章表現力の向上を目指してほしい。授業ではレポートを作成する時間を設けるので、辞書類は携帯すること。

日本語表現法

選 択

開講年次：1年次前期

科目区分：演 習

単 位：1 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：文章作成の基礎と文章表現の技法を学び、「書くこと」および「書かれたもの」への知識と理解を深め、さまざまな種類の文書に対応しうる文章表現力を身につける。

■**到達目標**：さまざまな種類の文章における文章作成の方法と文章表現技法の基礎を理解し、適切な文章が作成できる。

■**担当教員**：

平野 葵

■**授業計画・内容**：

第 1 回 オリエンテーション

第 2 回 学術的な文章

第 3 回 文章の要約

第 4 回 原稿の作成／レポート①

第 5 回 論文の構成

第 6 回 事実と意見

第 7 回 資料の収集と引用

第 8 回 資料の作成／レポート②

第 9 回 推敲と校正

第10回 敬語表現

第11回 メールと手紙

第12回 レトリック (1) 比喩表現／レポート③

第13回 レトリック (2) その他表現技法

第14回 テキスト (1) 作品と作者

第15回 テキスト (2) 言葉の世界／レポート④

■**教科書**：教科書は使わず、授業毎にハンドアウトを配布する。

■**参考文献**：必要に応じて、適宜支持する。

■**成績評価基準と方法**：授業内レポート（6割）、出席・授業態度（4割）

評価方法	到達目標	評価基準	評価割合 (%)
定期試験			
小テスト・授業内レポート	◎	授業内容を理解している事 指定された条件を守って執筆している事	60
授業態度	○	積極的な参加	適宜加味する
発表			
作品			
出席	◎	2/3以上の出席 課題を出席票に適切に記入できる事	欠格条件 40
その他			

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：授業中に文章作成の時間を設けるため、毎回辞書（電子辞書可）を携帯すること。

日本語表現法

選 択

開講年次：1 年次前期

科目区分：演 習

単 位：1 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：文章に関する知識や文章を作成する方法を学び、一人一人がより適切な日本語表現ができるようになるための基礎力を養う。その上で、数回（4回を予定）のレポートの作成を通じて、レポートを作成する時に必要な手順や思考方法を身に付けることを目標とする。

■**到達目標**：①文章作成の基本的な技能を身に付ける。
②標準的なレポートの作成方法や考え方を理解し、レポートが執筆できる。
③文章の多様性を知り、それぞれの約束事に沿った文章を書くことができる。

■**担当教員**：

齊田 春菜

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 オリエンテーション／日本語表現・レポートの役割
- 第 2 回 話し言葉と書き言葉
- 第 3 回 文章の読み方／要約の方法
- 第 4 回 コミュニケーションとしての文章／「読み手本位の文章」／【課題 レポート①】
- 第 5 回 レポートの執筆手順
- 第 6 回 引用のマナー／注釈の方法
- 第 7 回 数値データと図表の活用／資料収集と活用
- 第 8 回 事実と意見／先行研究について／【課題 レポート②】
- 第 9 回 問いと答えを切り出す／論証
- 第10回 アウトラインの作り方
- 第11回 アウトラインからパラグラフへ
- 第12回 書いた文章を見直す／推敲方法／【課題 レポート③】
- 第13回 文章を整える／表記のきまり／表記の統一／文末の表現
- 第14回 日本語の敬語の論理／手紙文・メールの形式を知る
- 第15回 総まとめ／【課題 レポート④】

■**教科書**：教科書は使わず、授業毎に資料を配布する。

■**参考文献**：講義中にその都度、紹介をする。

■**成績評価基準と方法**：授業内レポート（4割）、出席・授業態度（6割）

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
小テスト・授業内レポート	◎	◎	◎	授業内容を理解している事 指定を遵守して執筆している事	40
授業態度	○	○	○	積極的な参加	適宜加味する
発表 作品					
出席	◎	◎	◎	2/3以上の出席 授業内で指示された課題を適切に 記入できる事	欠格条件60
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：この授業は、説明を聞くだけでなく実際に文章を書く時間があるため、能動的態度で授業に参加し、全ての課題に取り組むことを期待している。原則全4回のレポート課題は必ず提出すること（期限内に課題を提出しない場合は、減点の対象となるので注意すること）。授業には辞書（電子辞書も可）を毎回、携帯すること。